

(8) 具同小学校

学 校 長 中平 泰史

校内研究代表者 中平 律子

1. 研究主題 「児童が問いをもち 主体的に課題解決していく授業づくり」

2. 主題設定の理由

本校は西部管内小学校で最も児童数・教職員数が多い学校である。児童の実態からすると、家庭的な背景を抱える児童や発達障害等の特性から特別な支援が必要な児童が多く在籍しており、生徒指導や特別支援教育等に力点を置く必要がある学校である。一方、教職員の実態からすると、本年度も新規採用教員が1名配置され、採用10年以下の教員が多く、若年教員の育成に力点を置く必要がある学校でもある。

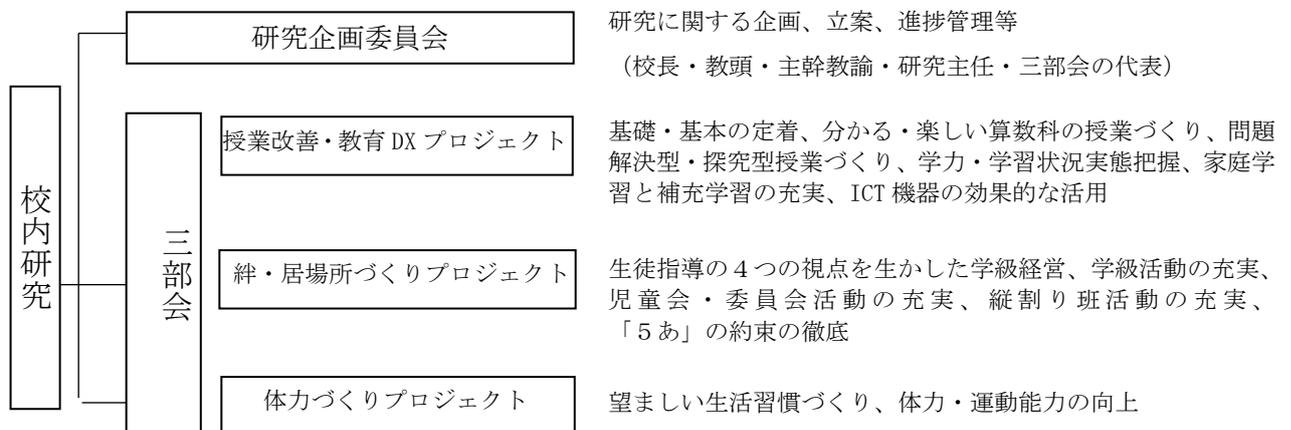
本校は令和5・6年度に「夢・志を育む学級運営のための実践研究事業」を受託し、学校、学級生活をよりよくするために児童自らが司会役を務めて話し合い、合意形成をして活動する学級活動(1)等の特別活動に全学級で取り組んだ。これまでの研究実践をベースに、教職員が学級経営や授業づくり等について話し合いながら、組織として統一感を持って生徒指導の4つの視点(①自己存在感の感受、②共感的な人間関係の育成、③自己決定の場の提供、④安心・安全な風土の醸成)を生かした授業づくりや特別活動の実践等を行ってきた。学級活動の授業では、相手を意識した議題を設定し、提案理由に沿って話し合うことで、何のために話し合っているのか、それをすることでどうなりたいのか意識し、イメージしながら話し合う姿が見られるようになってきている。しかし、全体の場での発表者が固定化しており、相手意識や目的意識を持った聞き方ができていない児童も依然として見られる。学力面においては、個人差や課題が見られる学年もあるため、授業改善を図るとともに、「人のことを大切に聴く」ことを学校全体で常に意識して取り組んでいく。

また、昨年度は、前年度より新規不登校児童数が増え、不登校傾向や登校しぶりのある児童が依然として多い状況であった。家庭での生活の乱れ等の家庭的な背景による要因の児童が多いと考えられるため、家庭との連絡をとることを引き続き大切にしながら、一人一人への細やかな目配り、手立てが今後も必要である。

そこで、今年度は、よりよい学級・学校にするために子どもたちが自ら考え、行動できる場を設定し、ちがいを認め、高め合う学級集団づくりを学校の基盤の取組として継続する。授業づくりでは、算数科の授業改善プランに基づき、上記の研究主題を設定して算数科の取組を他の教科学習にも生かすことで、授業改善を図ることができると考えた。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究体制



(2) 研究内容

①資質・能力ベースの授業づくり…授業改善

これまでの研究実践をベースに、教職員が授業づくり等について話し合いながら組織として統一感をもって取り組む。算数科を中心に、児童の思考の流れや問いを意識した授業に取り組んでいく。教育 DX についても、研究授業や単元構想の作成等に取り組む。

②児童主体の学級・学校づくり…絆・居場所づくり

児童が自己存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、自己指導能力を高めていくことができるよう、特別活動の充実を目指し、子どもたちが主体的に活動できる場を設定する。「5あ（挨拶・安全・後始末・集まり・遊び）」についても教職員間で共通理解を図りながら取り組む。

4. 今年度の成果と課題

令和7年度 研究授業

- 5年 学級活動（1）授業研①「クイズ大会をしよう
～5年1組クイズ王はどのチームの手に！？～」
- 6年 算数科授業研①「比 割合の表し方を考えよう」
- 4年 教育 DX 授業研① 算数科「考える力をのばそう ちがいに注目して」
- 4年 算数科授業研②「およその数の表し方と使い方を調べよう」
- 3年 教育 DX 授業研② 図画工作科 「カラフルねん土でマイグッズ」
- 1年 学級活動（1）授業研①「ドキドキをワクワクにかえるあそびをかんがえよう」
- 2年 算数科授業研③「たし算とひき算 図をつかって考えよう」

○算数・DX・特活のどの授業でも、児童が主体的に課題解決しようとする姿が見られた。

○研究授業において、事前・事後研をグループ協議で行い、参加者全員が意見を出し合うことで、教職員の授業を見る目が鍛えられた。

○実施した授業はどれも提案性があり、参加者全員が研究授業の成果や課題を自分事としてとらえ、学び合う姿勢ができています。

○今年度も、学級活動において児童の主体性を重視した学級会を実施してきたことで、児童が自分の考えを積極的に発表し、合意形成を図りながら話し合いを進められるようになってきた。

●算数科では、めあてにつながる「問い」を引き出す際に、一部の児童の発言で進んでしまい、全体の「問い」になりにくい傾向がある。

●ロイノート等の ICT 機器の使用は発達段階に応じて活発にできているが、「他者参照」が効果的にできていない。深い学びにつなげる具体的な手立てを考えていく必要がある。

●教職員間で授業力を向上させるために、授業を見合う時間や板書を共有する時間を設定していく。

